

＜オープンチャーチ礼拝＞ 復活節第3主日

4月26日 10:30~11:30

1 黙 禱

2 賛 美 21-493

3 聖 書 ローマの信徒への手紙 5章 9~10節
(新 P279)

4 説教と祈り 「わたしの味方」 有馬尊義

5 賛 美 21-457

6 各々の祈り

7 主の祈り

(家庭礼拝の例です)

※讃美歌は著作権の関係で配信していません。

＜今週の聖句＞ ローマの信徒への手紙 5章 9節

それで今や、わたしたちはキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。

【次週 (5月3日) の礼拝】

聖書：マタイによる福音書 18章 1~9節

説教：「一番偉い者」 有馬尊義牧師

讃美歌：21-341、21-120

西荻教会ホームページ URL

<https://www.nishiogi-g-y.com/nc/>



「なんという空しさ なんという空しさ、すべては空しい」(コヘレトの言葉 1章 2節)。旧約聖書のコヘレトの言葉の冒頭の一節です。「空の空、空の空、いっさいは空である」(口語訳)という言葉で覚えておられる方もおられるでしょう。聖書の中で異彩を放つ言葉です。

人生や信仰生活を「色」に譬えると、皆さんの人生や信仰生活は、何色でしょうか。子ども時代、青春時代、熱心に仕事をして報われてきた時、愛する家族を得た時、明るい色を放つことでしょうか。信仰生活であれば、教会に行き始めたばかりの時、真理を見つけたという喜びの時、洗礼をお受けになった時は、とても明るい色をしていたと思います。

ところが、神様を信じている生活においても、悲しみや苦しみは、突然のように襲ってきます。明るい色に影が射し始め、灰色になってくるのです。「空の空、空の空、いっさいは空である」。暗い現実の影響を受けて、人生も信仰も色があせてきます。わたしたち日本人の感覚からしますと、この言葉はよく実感できるものです。仏教的なあきらめの境地、あらゆる人間世界の表と裏を味わった人が、「空しい」という言葉を口にするとき、そこには何ともいえない説得力があります。

今、私たちの世界は新型コロナウイルス感染症のために、全く日常の色彩が変わってしまいました。人生の色彩を失う人々が日を追うごとに増えています。それは感染症にかかる人々よりもはるかに多い。目に見えないほど小さなウイルスに一切が否定されてしまい、隣人を見失い、失業の危機にさらされ、将来を期待する思いも失われていく。これまでの自分の人生は一体何だったのか。

一見すると、今日のローマの信徒への手紙を記したパウロの言葉はコヘレトとまるで違う人生観を持っているようです。しかし、コヘレトもパウロも時代を超えて同じものを見つめています。実はパウロも、自分の人生を「塵」にすぎない、と語っています(フィリピの信徒への手紙 3:5~11)。

事実として私たちの人生は「空しい」のです。

聖書はこの点を決して誤魔化しません。どんな成功も、称賛も、財産も、誇りも、いつか終わり、失われ、忘れ去られてしまいます。死があるからです。義なる神様の裁きとして、罪の支払う報酬の死があるからです。この死の前では、何ものも価値を持ちません。何の意味もありません。

パウロは、立派なユダヤ人の家系に生まれ、当時最高の教育を受け、律法を熱心守って生きてきました。ユダヤ人として自他共に認める誇らしい生き方をしてきました。しかし、キリストの救いをいただいた時に、彼は知ったのです。それは死の中で誇っているのに過ぎないではないか。本当に求めるべきは、死の中で誇るのではなく、「キリストとその復活の力を知り、…何とかして死者の中からの復活に達」することではないか。コヘレトの言葉の最後の言葉はこういうものです。「すべてに耳を傾けて得た結論。『神を畏れ、その戒めを守れ。』これこそ、人間のすべて。神は、善をも悪をも一切の業を、隠れたこともすべて裁きの座に引き出されるであろう」(コヘレトの言葉 12章 13~14節)。

罪の力が「空しさ」を与えます。罪の力が私たちに支配する時に、どんなものも空しさの中で意味を失っていきます。命を失っていきます。この空しさから私たちに救い出してくださるために、神様は、私たちのために独り子をお与えになってくださいました。順風満帆な人生ではなく、弱さと罪の中に神様の真の恵みが輝いたのです。空しい者のために神の独り子が命を捨ててくださいました。それが十字架で起こったことです。そして、神様は死の空しさの中に御子を置かず、復活させられました。

「今や、わたしたちはキリストの血によって義とされた」のです。キリスト者は、「空しさ」の中で、キリストの十字架の贖いと復活の光の中によって、どんな悲観論者よりも深く人の悲しみを知らされます。そして同時に、どんな楽観論者よりも大きな慰めを与えられます。神様から出ていないものは、一切が「空しい」のです。逆に、神様においては、すべてのものが意味を持ちます。空しさに脅かされ、色を失った人生も信仰も新しくされます。